

昭和55年度 北海道に発生した森林害虫

北海道森林昆虫談話会

(1981. 4. 16受理)

1. 害虫の発生状況

北海道林務部，北海道営林局，各営林支局，北海道林木育種場，そのほか山林所有者からの同定依頼，被害報告，ならびに北海道林業試験場，林

業試験場北海道支場の観察調査をもとにして，昭和55年度，北海道に発生した森林害虫の発生状況を第16回，北海道森林昆虫談話会（昭和56年3月11～12日開催）でとりまとめた（表-1）。

表-1 昭和55年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
フシダニの1種	トドマツ	江別市	北海道林木育種場，雄花に寄生加害
スギノハダニ	スギ		54年度に道南地方で多発（約8,000 ha）しているが，本年度は報告がない。
トドマツノハダニ	トドマツ	帯広署，上士幌署，本別署，阿寒署 (50.00)	幼齢造林地および各地の苗畑で散見
スギマルカイガラムシ	トドマツ		幼齢造林地
イヌガヤワタカイガラムシ	イチイ		各地の庭園樹に多く発生している。
ヒメカサアブラ	アカエゾマツ	白老署 (5.00)	そのほか各地の苗畑，幼齢造林地で散見
エゾマツカサアブラ	エゾマツ	札幌市	そのほか各地の幼齢造林地に発生している。
トドマツオオアブラ	トドマツ	北海道局 (3,444.84) 函館支局 (346.11) 旭川支局 (504.90) 帯広支局 (1,500.00) 道有林 (1,815.00) 民有林 (1,281.02) 計 (8,891.87)	防除面積 北海道局 (3,463.00) 函館支局 (176.02) 旭川支局 (54.21) 帯広支局 (988.00) 道有林 (1,815.00) 民有林 (1,159.83)
エゾマツオオアブラ	アカエゾマツ	北海道局 (2,105.77) 旭川支局 (237.74) 道有林 (1,129.00) 計 (3,472.51)	防除面積 北海道局 (1,746.00) 旭川支局 (87.43) 道有林 (1,129.00)
トドマツノタマバエ	トドマツ	八雲署 (685.00)	そのほか太平洋岸に面した幼齢造林地に発生している。
スギタマバエ	スギ		道南のスギ造林地で散見
マツバノタマバエ	クロマツ	桧山署 (63.88)	昭和51年砂坂海岸で被害が発見されてから継続して発生，近辺のクロマツ林でも寄生が認められている。
エゾマツノシントメタマバエ	アカエゾマツ	札幌市，上川署	幼齢造林木に寄生
カラマツタネバエ	カラマツ		球果
クリタマバチ	クリ	美瑛市	道南の各地で継続して発生している。
カシワハナフシ	カシワ	標茶署，弟子屈署，中標津署 (約100.00)	道東のカシワ造林地に継続して発生しているが，前年よりは減少の様子。
シラカバノクロボシハムグリハバチ	シラカンバ	札幌市	その他各地の幼齢造林地に発生している。
エゾマツハバチ	アカエゾマツ トウヒ類	江別市	北海道林木育種場

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
カラマツキハラハバチ	カラマツ	大樹署, 清水署, 新得署 (30.00)	前年道央で大発生したが, 減少の様子
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	苫小牧林務署 (160.00), 早来町(238.00), 厚真町 (907.00), 穂別町(160.00), 苫小牧市(159.00), ニセコ町 (8.00) 計 (1,632.00)	防除面積 早来町 (110.00) 厚真町 (141.00) 穂別町 (70.00) 発生面積は前年より拡大
ハネナガフキバツタ	広	鹿追町 (4.00)	天然林。そのほか道央の各地で発生が目立つ。
エゾマツノメイガ	トドマツ	富良野署	そのほか各地の苗畑
マツノシンマダラメイガ	ストロブマツ	穂別町	樹幹に穿入, 樹脂の流出が多い。
マツマダラメイガ	トドマツ	芦別署 (1,901.70)	昭和37~47年植栽, 梢端の髓部に穿入加害
ドイツトウヒマダラメイガ	アカエゾマツ	江別市 (1.00)	枝に鳥巢状の巣をつくり葉を食害
マツツマアカシムシ	クロマツ	東瀬棚署 (3.64)	海岸林
オオクシヒゲシマメイガ	ミズナラ	標津署	知床半島, 海拔600 m以下のミズナラ天然木, 全葉を食害
マエアカスカシノメイガ	ヤチダモ	足寄署, 清水署	道東地方を中心に大発生していたが終熄の様子
マツヒメハマキ	ストロブマツ	苫小牧署	
ハマキガの1種	ストロブマツ	神楽署 (2.19)	
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	訓子府町 (16.60), 北見市 (103.90)	そのほか道東地方での発生が多い。
コスジオビハマキ	トドマツ	室蘭署(47.25), 滝川林務署, 東神楽町(6.60), 下川町(2.64)	
タテスジハマキ	トドマツ	大樹署 (10.00)	
トドマツアミメハマキ	トドマツ	旭川林務署 (89.00)	
トドマツメムシガ	トドマツ	滝川林務署	
カラマツツツミノガ	カラマツ	静内署(6.00), 室蘭署(109.61), 森署 (20.00), 桧山署 (835.63), 厚沢部町(5.76), 壮督町(55.00), 伊達市(53.00)	
ツガカレハ	トドマツ		報告なし。
マイマイガ	カラマツ	仁木町(4.00), 共和町(2.00), 東神楽町(5.88), 風連町(5.80), 比布町(6.30), 計 (23.98)	
ヤナギドクガ		上士幌署, 標茶署	天然林
キアシドクガ	ミズキ		空知, 石狩, 胆振, 日高地方に広く発生している。しかし昭和50年ころから続いた大発生もようやく減少の様子。
オオチャバネフユエダシャク	トドマツ	室蘭署(92.05), 士別署(61.07), 旭川林務署(43.00)	
ミスジツマキリエダシャク	カラマツ	厚岸町(6.28)	
ナミスジフユナミシャク	ハンノキ		報告なし。
シャクガの1種	カンバ類	神楽署(0.80)	
セグロシャチホコ	ポプラ	札幌市	各地で散見
ブナアオシャチホコ	ブナ	乙部署, 桧山署	54年度に道南地方で大発生しているが, 当年は少ないようである。
キマダラコウモリ	スギ		道南地方で散見
カラマツミキモグリガ	カラマツ	標茶署	
キバネセセリ	ハリギリ	山部町(1,300.00, 天然林), 札幌市, 苫小牧署	東京大学北海道演習林そのほか道央各地に発生しており, 大木の全葉を食害
ヒメコガネ	トドマツ シラカンバ	札幌市	各地の苗畑

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
ナガチャコガネ	トドマツ他	夕張市	苗畑
スジコガネ	トドマツ	札幌市	
ハンノキハムシ	ハンノキ		全道的な発生も減少の様子
ヤツバキクイ	エゾマツ	定山溪(0.49)	天然林
カラマツヤツバキクイ	カラマツ	上士幌署(50.00), 標茶署(40.00), 中標津署(50.00), 丸瀬布署(2.71), 美幌町(15.08), 津別町(2.72)	
マツキボシゾウ	クロマツ	東瀬棚署(3.64)	海岸林
スギノアカネトラカミキリ (キオビトラカミキリ)	スギ	松前町	造材木
クシヒゲシバンムシの1種	シキハダ ホシホ エンジ シウリサクラ	北見市	床柱などの乾材

2. 主な害虫の発生動向

苗畑害虫：苗畑ではトドマツノハダニ、ヒメカサアブラなどの寄生が各地で観察されているほか、道央でエゾマツノメイガ幼虫がトドマツ苗の地ぎわを食害する被害が認められている。また土中ではヒメコガネ、ナガチャコガネなど根幼虫による被害も各地で増えているようである。

吸汁性害虫：スギノハダニは52年度にはじめて発生報告があり、54年度には松前町から尻岸内町、楸法華村など津軽海峡に面した地方で約8,000 haの大発生をしている。55年度はとくに7～8月の気温が低かったことによるのか、その発生は少なかったようである。つぎに新しい被害としてトドマツの雄花（花芽の内部）にフシダニの1種が集団で寄生、加害しているのが江別市で発見された。オオアブラムシ類の発生は各地とも前年とほぼ同じようである。

虫えい害虫：江差町砂坂のクロマツ海岸林に51年から継続発生しているマツバナタマバエは54年と比較して寄生率は約 $\frac{1}{2}$ に減少している。

新梢穿入害虫：マツマダラメイガは北海道では球果の害虫として知られているが、今回、道央でトドマツ新梢の髓部に穿入加害しているのが発見された。この被害は何年か以前から発生を続けていたようであり、被害木はこの被害によって直接枯れてしまうのではないが、梢頭部がほうき状になり、上長生長をいちじるしく阻害する。道南地方のクロマツ海岸林ではマツツマアカシムシの寄生加害がみられた。

食葉性害虫：カラマツキハラハバチは十勝、日高地方を中心に53～54年と大発生しているが、55年の発生は少なかったようである。一方、カラマツハラアカハバチは52年に苫小牧、厚真地方で発生が認められていらい胆振東部地方を中心に年々発生面積が増しており、55年にはニセコ町でも発生が認められている。なお本種は長野県でも50年から発生が認められており、53年810 ha、54年2,741 ha、55年3,714 haと被害面積が増加しているとのことである。この被害は幼虫の食害時期がおそく、連年加害をうけたところでは枯損木もでていいる。オオクシヒゲシマメイガは54年に定山溪の天然林で大発生したが55年には減少した。しかし一方、当年は知床半島で海拔600 m以下のミズナラ天然木がほとんど全葉を食害される大発生であった。カラマツイトヒキハマキは54年につづいて55年も道東地方に多く発生している。オオチャバネフェエダシャクは上川北部、胆振西部地方のトドマツ壮齢人工林に大発生しており、とくに梢頭部の加害が大きい。カラマツツツミノガは胆振西部、桧山など道南地方で広域的に発生している。また北海道での被害記録は初めてと思うが、キバネセセリが道央地方一帯に多発しており、ハリギリの葉を食害、とくに大径木の被害が大きい。

つぎにキアシドクガは昭和50年にその発生が認められていらい、石狩、空知、胆振、日高地方の広い地域で、ミズキの全葉を食害する発生がつづいていたが、55年によりやく減少の傾向がみられた。このほかマイマイガ、マエアカスカシノメイガ、ハンノキハムシなどの発生も当年は少いよう



図-1 主な森林害虫の発生地

である。

穿孔性害虫：記録されているものは少ないが、各地の針葉樹天然林でヤツバキクイなど穿孔虫の加害による枯損木は相当量あるものと推察される。またカラマツは除間伐の対象となる林地が多いこともあって、53-54年にカラマツヤツバキクイの被害が増加しているが、55年の発生は減少している。つぎに道南地方でスギの造林木が伐採されているが、その造材丸太にスギノアカネトラカミキリ（キオビトラカミキリ）の寄生が認められた。本種はこれまで北海道での分布が明らかでなかったのであるが、今回、道林試によって確認された。なお生息密度は少くないようであるとのことである。

3. 虫害の発生予知

北海道の森林害虫の発生状況が本誌に掲載（46年度、北方林業 281号、昭和47年8月）されるよ

うになってから今回でちょうど10回目になる。

林業や森林の特殊性からみて、害虫の異常発生による大被害を事前に察知して、これをさげなければならないとする必要性は大きい。このため長期的には害虫の発生変動を展望できること、また短期的にはその発生を予察することが必要である。

短期的な成功例の一つとしては、昭和51-52年に北見津別地域を中心にツガカレハの大発生があったが、これを未前に察知してその被害を最小限におさえることができた。ツガカレハの幼虫は秋おそく地面において越冬、翌春ふたたび樹上にのぼって食害をする。この越冬中の幼虫数を数えることから翌年の被害量が大であることを推定して、樹幹にビニールテープを巻く方法により、幼虫の食樹にのぼるのを阻止、被害をおさえることができたのである。

このような短期的な予察の確率を高めるためにも、長期間の発生資料の集積による、発生変動の

展望が重要であることはよく認識されていること
 と思う。このため北海道では比較的によくからの
 発生資料が残っており、虫害発生の解析に役立つ
 ている。

虫害の発生の仕方によって恒常発生型（アブラ
 ムシ類）、特異発生型（穿孔虫のように風害や伐採
 など環境の急変にしたがって発生するもの）、突発
 発生型（ツガカレハ、マイマイガなど食葉性の害
 虫の多くの場合）などいくつかの型に便宜的に分
 けているが、長期間の虫害発生資料から害虫発生
 の周期性（ブナアオシャチホコやツガカレハは10
 年を1単位とした大発生をくりかえしていること）、
 地域性（ツガカレハの大発生は道東地方に多く、
 トドマツノタマバエは大平洋側の霧の多い地域に
 多い）などが明らかになってきている。

また広域的にはブナアオシャチホコやイタヤハ
 ムシは東北地方と発生年を同じくしており、いま
 胆振東部地域に大発生しているカラマツハラアカ
 ハバチは長野県での発生経過とも似ている。

北方林業に掲載してきた発生資料もその1単位
 （10年）の責をはたすことができたわけである。
 終りにこのような害虫発生の情報の収集は現場の
 人達の目や足がもととなっているものであり、ま
 たこれらの整理に努力された各関係機関の担当者
 に深く感謝する。あわせて今後とも一層のご協力
 をお願いしたい。

（林業試験場北海道支場 小泉力記）

文 献

- 1) Higashiura, Y. : Analysis of factors affecting bird
 predation on gypsy moth egg masses by using Holl-
 ings disc-equation, Researches on Population Ecol-
 ogy, 22(1), 147-162, (1980)
- 2) 北海道森林昆虫談話会：昭和54年度、北海道に発生し
 た森林害虫, 北方林業32(6), 19-23 (1980)
- 3) 星輝夫：カラマツ間伐におけるカラマツヤツバキクイ
 の発生消長, 帯広営林支局, 昭和54年度業務研究発表
 論文集 116-122(1980)
- 4) 井坂昌洋, 新田秀利, 鈴木重孝：北見地方におけるカ
 ラマツヤツバキクイの被害と防除, 昭和54年度林業技
 術研究発表大会論文集, 145(1980)
- 5) 上条一昭, 東浦康友, 鈴木重孝：カラマツハラアカハ
 バチの薬剤防除試験, 光珠内季報, 44, 2-4,
 (1980)
- 6) 上条一昭：トドマツ, カラマツの蛾類, 昆虫と自然,
 15(2), 10-14 (1980)
- 7) 今野幸夫, 梅本正照, 中村英二：カラマツヤツバキク
 イの防除試験について, 帯広営林支局, 昭和54年度業
 務研究発表論文集 112-115(1980)
- 8) 村上博, 高橋清志, 清水寛治：カラマツヤツバキクイ
 の生態と防除方法の確立について, 帯広営林支局, 昭
 和54年度業務研究発表論文集 106-111(1980)
- 9) 鍋田弘, 池ノ谷重男：カラマツハラアカハバチの駆除
 について, 昭和54年度林業技術研究発表大会論文集,
 137, (1980)
- 10) 大和田正人, 小泉力, 竹村光夫：砂坂海岸林における
 マツバノタマバエの大発生, 北方林業, 32(5), 8-
 12 (1980)
- 11) 柴田前, 井口和信：キバネセセリによるハリギリの被
 害報告, 野ねずみ, 159, 77 (1980)
- 12) 高井正利, 古田公人：広葉樹林によって隔離された大
 面積の造林地へのトドマツオオアブラの侵入と定着,
 日林誌, 62(1), 34-37 (1980)
- 13) 高井正利, 古田公人：アカエゾマツ, エゾマツ上のエ
 ゾマツオオアブラの個体群密度, 91回日林論,
 377-378(1980)